

平成21年度個体数調整実施計画(案)

1. 捕獲目標頭数について

第2期大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（計画期間：平成19年度～23年度）では、緊急対策地区の目標生息密度を約10頭/k㎡に設定し、早期（2～3年）で目標密度に低減させることを目標として個体数調整を実施してきた。今後の捕獲計画を検討するため、平成19、20年度の捕獲実績を「大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画第2期」の資料編に示した生息数シミュレーションの方法を用いて、再計算した。平成21年度は第2期計画の3年目となり、第2期計画に基づき目標生息密度を達成するための捕獲計画案を表1に示す。

利用者の安全性が確保できる捕獲期間に限られること等を考慮し、平成21年度の目標捕獲頭数は100頭とする。

表 1 推移行列を用いたシミュレーションによる捕獲計画案（現行の算出方法に基づき算出）

年度	【現行計画】 3カ年（H21）で 目標密度		【参考】 4カ年（H22）で 目標密度		【参考】 5カ年（H23）で 目標密度	
	推定生息数	捕獲数	推定生息数	捕獲数	推定生息数	捕獲数
平成18年度	221		221		221	
平成19年度	188	33(実績)	188	33(実績)	188	33(実績)
平成20年度	192	44(実績)	192	44(実績)	192	44(実績)
平成21年度	69	160	125	100	133	90
平成22年度	60	15	69	65	85	60
平成23年度	62	5	69	10	70	25

2. 個体数調整計画について

(1) 捕獲手法

平成20年度に引き続き、捕獲手法として装薬銃、集団捕獲わな（アルパインキャプチャー）、麻酔銃を用いる。また、平成20年度に試験的に導入したくくりわなも捕獲手法として用いる。

【麻酔銃】

捕獲開始当初は、捕獲効率が0.5～1と高い捕獲効率を示したが、銃による捕獲に対する警戒心により近年極端に捕獲効率が低下している。性別や年齢などの選択的な捕獲が可能であり、発射音がほとんどしないことや、少人数で行うことが可能である長所もある。アルパインキャプチャー等他の捕獲手法と組み合わせて使用する。

【アルパインキャプチャー】

捕獲開始当初より、一時期を除き捕獲効率に大きな変動は見られない。選択的捕獲ができないという短所もあるが、他の作業と同時に稼働できることから、継続していく価値のある方法と考えられる。ただし、機材の老朽化が進行しており、引き続き実施するかどうかは検討が必要である。

【装薬銃】

比較的高い捕獲効率を示し、選択的捕獲も可能である。しかし、利用者の安全性の点からドライブウェイ閉鎖時期などの捕獲時期が限定される。捕獲効率の低下が確認されるまではこれまで通りの方法で実施が可能と考えられる。

【くくりわな】

試験捕獲の結果、比較的高い捕獲効率を得られている。しかし、選択的捕獲ができないこと等の短所があり、利用者の安全性の点からドライブウェイ閉鎖時期などの捕獲時期が限定される。

表 2 捕獲方法別の主な特徴

捕獲方法	平成 20 年度 捕獲効率	選択的捕獲	捕獲時期 の制限	準備期間
麻醉銃	0.09	可	無	短
アルパインキャプチャー	0.20	不可	無	設備があれば 「短」
装薬銃	0.43	可	有	長
くくりわな (試験)	0.50	不可	有	短

(2) 時期

①装薬銃

ドライブウェイ閉鎖中の春期 (4月21日前まで) と晩秋期 (11月下旬～)

②集団捕獲わな (アルパインキャプチャー)、麻醉銃

ドライブウェイ開放期間は、装薬銃以外の従来の手法で捕獲を実施する。

③くくりわな

ドライブウェイ閉鎖中の春期 (4月21日前まで) と晩秋期 (11月下旬～)

(3) 実施場所

奈良県吉野郡上北山村大字小椽 (東大台)

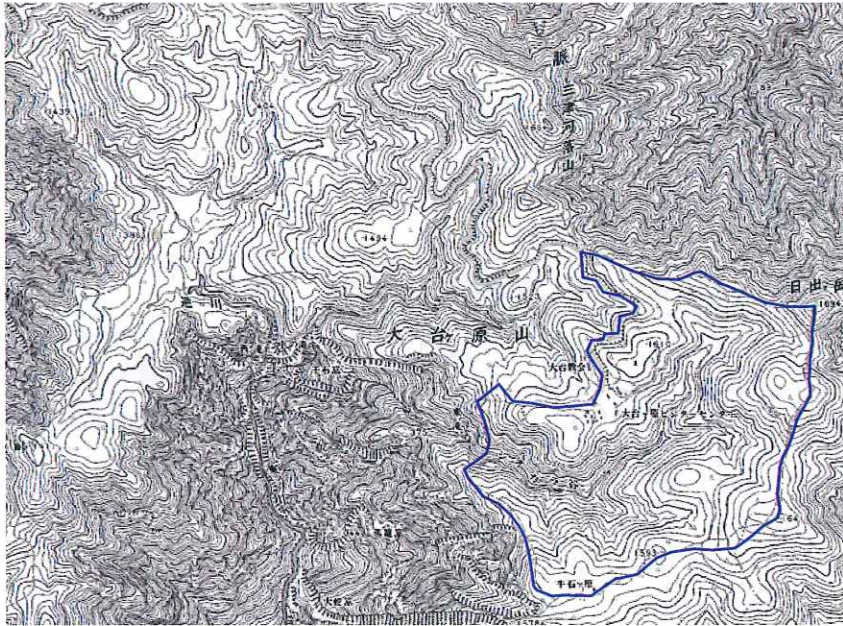


図1 個体数調整実施場所（線の枠内）

（４）達成状況の評価方法

達成状況の評価については、短期的には捕獲頭数及び生息密度、中長期的には植生の状況等を検討して行う。

2. その他

過去のWG、部会、評価委員会で出た意見を踏まえ、以下の点についてWG及び部会で引き続き検討を行う。

《検討課題》

- ①夏期における個体群の状況のモニタリングについて
 - ・夏期の密度を推定する方法等について検討
- ②ニホンジカの生息密度と植生の関係に基づいた推定生息数の算出方法の検討
 - ・ミヤコザサの被度と生息密度の関係等を解析し、推定生息数の算出方法を検討
- ③西大台の個体の食性の把握
 - ・西大台では個体の捕獲を実施していないため、胃の内容物の調査は困難
 - ・糞の解析により、双子葉植物（樹皮含む）、単子葉植物、ササ類までは分類することができるが、グラミノイドの中で法面植生を特定することは困難
 - ・調査方法と結果のフィードバックについても検討

【参考】

次年度の各手法による捕獲の試算について

平成 21 年度目標捕獲頭数：100 頭

方法	日数	人数	捕獲効率	捕獲数	備考
装薬銃	10	10	0.43	43	人数は大台ヶ原の面積を考慮すると8~10人が最適
くくりわな	24	4	0.5	48	1人あたりのわな数は20基程度
麻酔銃	40	1	0.09	3	
アルパインキャプチャー	40	1	0.2	8	
合計				102	

くくりわな試験の実施について (案)

■目的

本年度、くくりわなによる試験を10月と12月の2回実施し、積雪前の12月の試験捕獲では15頭捕獲された。次年度くくりわなを効果的に活用するため、ゲート閉鎖期間中である3月末に雪解け後のシカの行動や捕獲状況を確認するため、積雪の状況に応じて可能な範囲でくくりわなの試験を実施する。

■実施期間

積雪の状況に応じて、3月末に5日間程度実施

※注) わなが稼働しないほどの積雪があった場合は中止。

■方法

- ・わなの種類：シシキラーを使用。
- ・設置場所：平坦地もしくは緩傾斜の地形で、ツキノワグマの出没の可能性が低い場所
- ・シカの警戒状況を確認するため、赤外線自動撮影カメラ（動画）を6基設置する。
- ・毎日1回の見回りを早朝に行う。

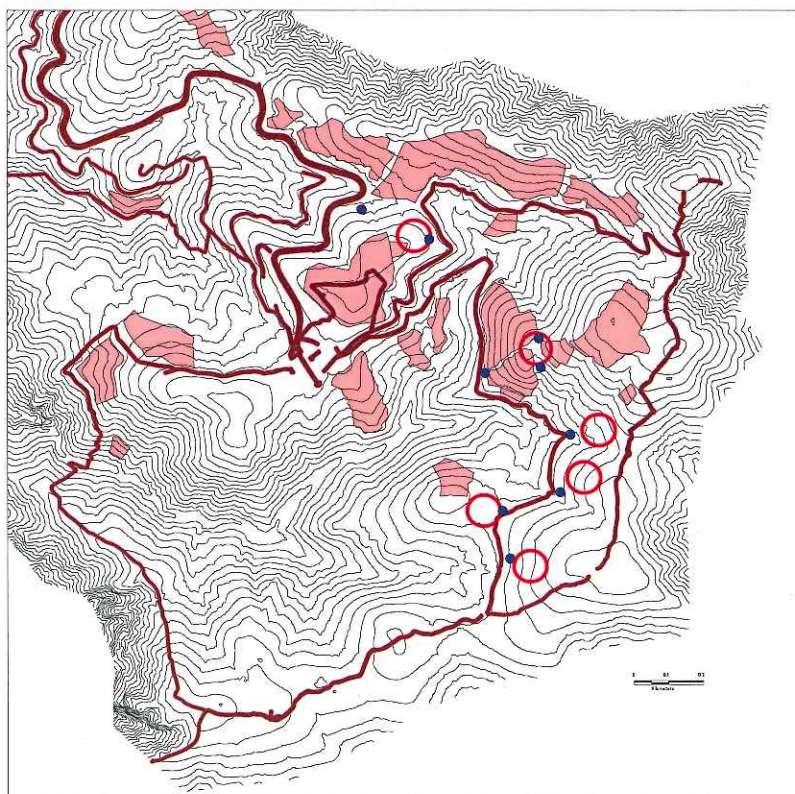


図 1 試験実施予定区域

(○ : わな設置予定区域 ● : くくりわな用注意看板設置予定地、■ : 防鹿柵)